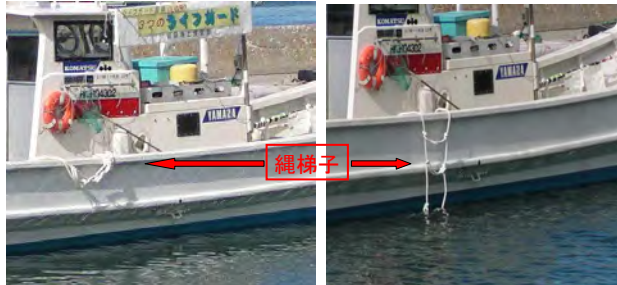


ライフロープ

1人乗りで海中に転落した場合や、救助する際に船に上げるのはかなり難しく、アルミ製はしご等 비해保管場所を取らない。

格納状態

展開状態



船内側取付状況

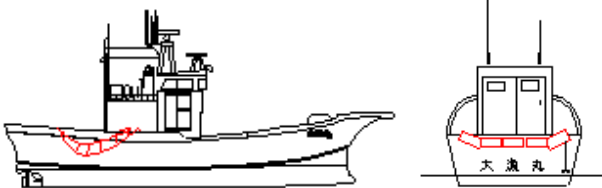


細索はテグス等強く引けば切れる素材であれば何でも可

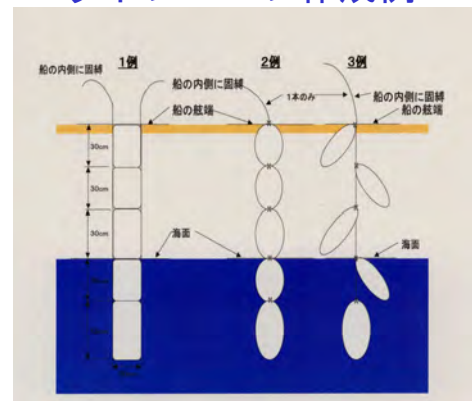
ライフロープの取付例

船体舷側の取付例

船尾舷側の取付例



ライフロープ作成例



はしご等の形にしなくても、ロープに等間隔で節結びを作るだけでも滑りづらいためにかなり違う。



登り切れない場合の対応 (ライフラダーにつかまって携帯電話で救助要請)



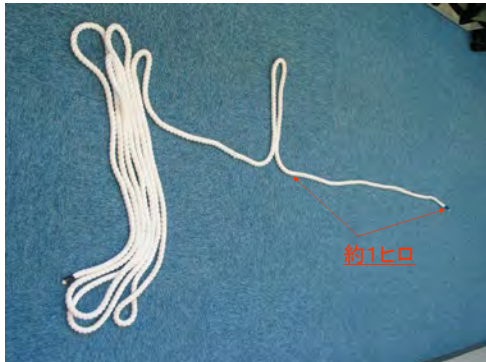
船首部に設置した状況



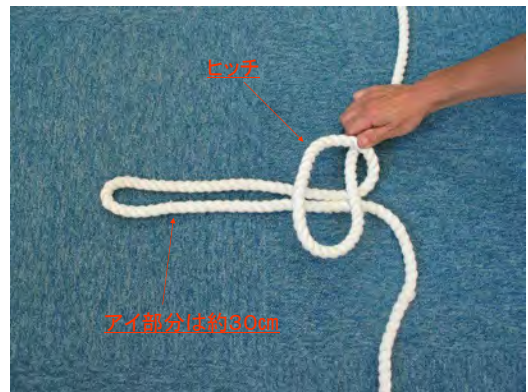
縄梯子を使用した海中転落者の救助状況

ライフロープ（縄梯子）の作成要領

1 ロープの長さ約10メートル



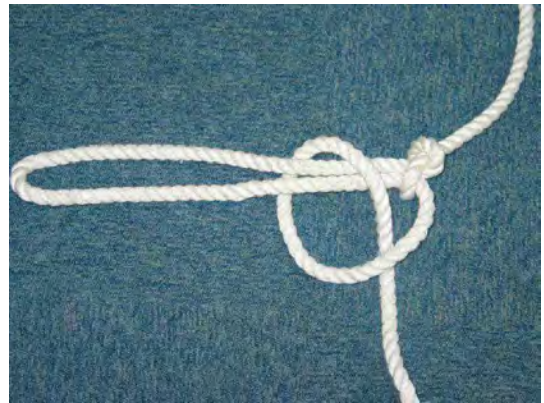
2 梯子の1段目



3 アイの部分をヒッチの中通す



4 一方のロープもヒッチを作りアイを通す



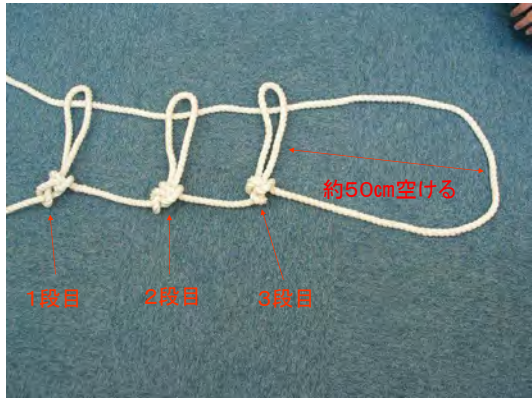
5 両方のロープを張る



6 2段目を作成



7 3段目を作成



8 梯子反対側の結束方法



9 完成品



簡易縄梯子（ロープタラップ）について

タラップには高価な物や、作るのに手間がかかるものがありますが、ここで紹介するロープタラップは手軽で簡単に作製できることを重視しており、手持ちのロープ（長さ約10m、10mm径）で作ることができます。

これを船尾につけておけば、万一、一人で海に落ちても甲板に上がることができます。また、岸壁から誤って落ちた場合でも、あらかじめ岸壁にたらしめて備えておけば、命綱として活用できます。

作り方

1 ロープを2本（ダブル）にしてふし結びを行います

ロープ1本でふし結びを作るのではなく、ロープの真中で折り返して、2本（ダブル）の状態とし、結んでいきます。

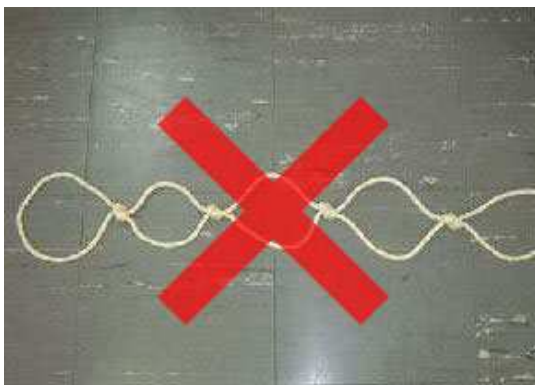


2 左右の長さに差をつけて結んでいきます

ロープの左右の長さに差をつけて（概ね1：2の割合）作成します。こうすることで、体重・テンションがかかった状態でも他の輪が張らないので、次の足が入れやすくなります。



左右の長さを同じにすると、体重・テンションをかけたときに他の輪が張るため、次の足を入れることが困難となります。



～海中転落時に縄梯子を活用～

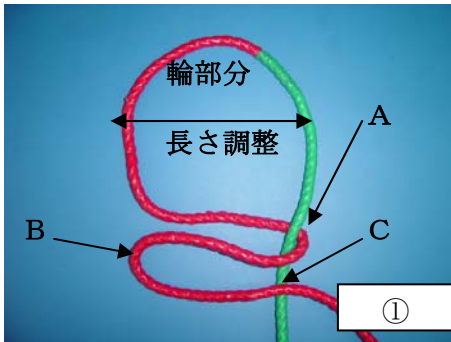
縄梯子の使用例



市販のロープで作成した縄梯子



～はしご結び～



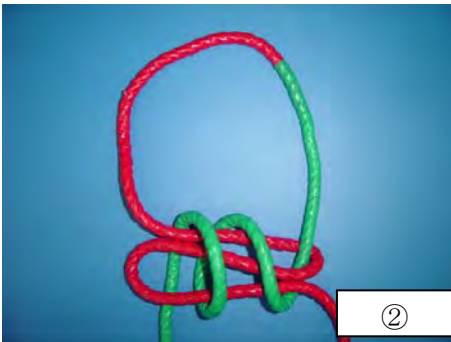
① 水面上に垂らす部分の輪部分から作っていきます。

A: 赤ロープを緑ロープの下から通す。

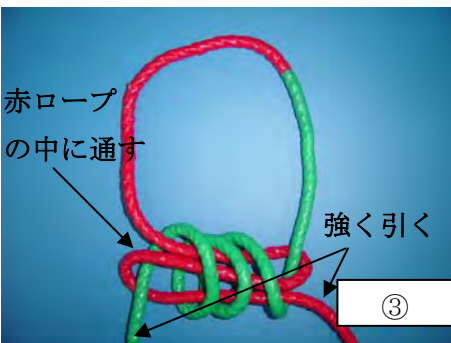
B: 左で折り返す。

C: 緑ロープの上に置く。

その際、輪の大きさ及びはしごの掴まり部分の長さを調整する。



② 緑ロープを赤ロープで折り返した部分に、手前から奥へ巻き付けていく。



③ 掴まり部分のエンドを赤ロープの折り返し部分の中に通し、緑ロープと赤ロープを強く引き、輪部分の完成。



④ 順次、はしごの掴まり部分を作っていく。